

小林泰三「酔歩する男」例会レジュメ

1. 著者紹介

小林泰三（こばやし やすみ）…昭和 37 年京都生まれ。大阪大学基礎工学部卒業、同大学院修了。平成 7 年『玩具修理者』で第二回日本ホラー小説大賞短編賞を受賞、デビュー。平成 10 年、『海を見る人』で第 10 回 SF マガジン読者賞国内部門受賞。平成 25 年『アリス殺し』で「このミステリーがすごい！2014 年版」国内 4 位。その他に『密室・殺人』、『忌憶』、『天獄と地国』、『家に棲むもの』がある。日本推理作家協会、日本 SF 作家クラブ、宇宙作家クラブ、電子情報通信学会会員。現在、大手電機メーカー勤務。

2. 個人的感想

3. 菟原処女伝説・真間の手児奈伝説

菟原処女（うないおとめ）伝説…兵庫県摂津菟原郡に伝わる伝説。万葉集の歌に登場。菟原処女が血沼壮士（ちぬおとこ）、菟原壮士（うないおとこ）の両者に求婚され、入水。残った男たちも後を追って自殺する妻争い伝説。

真間の手児奈伝説…千葉県市川市真間に伝わる伝説。万葉集の歌に登場。美しいと評判の娘・手児奈が複数の男達に言い寄られ、結局入水するという伝説。

4. 時間論

「時間の流れは意識の流れだ。意識の流れをコントロールすれば、時間の流れもコントロールできる」（p 112）

「俺たちの無意識が、持てる感覚を総動員して、時間の流れを決定している」（p 133）

「時間は連続していない点の集合なんだ。（中略）脳は物理現象の連続性を満たすように時間の点に順番付けをする」（p 144）

「時は流れてはいない」（p 155）

「時間の流れを探知していたのは脳ではなく、精神の方だった」